

平成30年度 第1回逗子市自殺対策計画策定等検討会 概要

日 時 平成30年8月9日（木） 午後3時から5時

場 所 逗子市役所5階 第4会議室

出席者

【アドバイザー】成瀬雅水、小保内洋子

【メンバー】竹田幸子、草柳ゆきゑ、新倉昭治、武田信一、中野祐子、野中邦一、
石澤方理

【講師】中込昌也

【事務局】須藤福祉部長、廣末課長、西海副主幹、青山、佐藤、浅川

【傍聴者】2名

欠席者

池上直樹

議事概要

1 開会

福祉部長挨拶。

2 自己紹介

アドバイザー、メンバー、事務局から氏名及び自身の業務や活動について自己紹介。

傍聴者入場後、資料の確認を行った。

3 議題

(1) 地域自殺対策計画の策定について

(事務局説明)

- ・資料1、当検討会の要綱参照。
- ・当検討会は自殺対策の計画を策定するために、広く市民の皆様や関係者の方のご意見を頂くための検討会として開催するものである（第1条）。メンバー、アドバイザーの皆様は、第2条、第3条の規定に基づきお集まりいただいた。より良い計画策定のためにご意見を頂きたいので、よろしく願います。

- ・本日は第1回目ということで、自殺対策の基本的な考え方や、地域で自殺対策計画を策定する意味などについて共通の認識を持つため、かながわ自殺対策推進センター（神奈川県精神保健福祉センター）中込昌也氏から、資料2に沿ってご説明を頂く。説明後、質問や意見を頂きたい。

(講師説明)

- ・テーマ「地域自殺対策計画の策定について」(資料2)

◎我が国における自殺の状況と自殺対策の経緯

- ・表は警察統計(警察官が現場に赴いて明らかに自殺と判断したものを1年間足したもの)
- ・平成9年から10年に自殺者3万人以上に急増。バブル崩壊後生活に影響が出てきた時期。金融機関の破綻も相次いだ。
- ・平成24年以降から自殺者が2万人台に落ち着いてきたが、実際はもっと多いと考えられている。
- ・国は平成18年自殺対策基本法を作ったのが法律的な自殺対策の始まり。
- ・平成28年の法改正に伴い市町村でも自殺対策計画を策定することとなった。

◎計画策定の根拠：自殺総合対策の更なる推進を求める決議

- ・マイナス面ばかりではなくプラス面に着目し、社会全体で自殺のリスクを低減しようという動きになった。

◎計画策定の根拠：自殺対策基本法

- ・第13条をもとに神奈川県は平成30年3月に神奈川県自殺対策計画を策定。逗子市

は自殺総合対策大綱と神奈川県自殺対策計画と地域の実情を勘案して計画を立てる。

◎自殺対策計画策定の背景：自殺総合対策大綱

- ・第3の1～5の主旨に沿って計画を立てていく。

◎国における自殺対策の推進：自殺対策推進室の設置

- ・自殺対策について国の組織の改定について書かれた図で、平成28年4月から完全に担当が異なることがわかる。

◎自殺対策推進室の役割

- ・自殺の背景にある様々な要因に対応するためには、地域における保健・福祉部局やハローワーク等の連携が重要であるため内閣府から厚生労働省へ自殺対策が移管された。

◎地域自殺対策計画の策定・推進の概要

- ・各機関の役割について明記した表

◎神奈川県自殺対策推進体系図

- ・真ん中に市町村を置き、みんなで自殺対策を進めていこうというイメージ図

◎神奈川県の自殺の現状

- ・神奈川県は男性で中高年が多く、国と同じ現状。

- ・原因は複数回答。自殺の理由は1つではない。

◎逗子市の自殺の現状

- ・自殺死亡者が1人でも増えると率が急激に変わる。順番等でみるのはあまり意味がない。参考程度に言うならば、平成29年神奈川県33市町村で逗子市は人口10万単位の自殺死亡率では低い方から4番目、自殺死亡数は高い方から25番目である。自殺の現状を考えるにあたり、単年度で見るより長いスパンでみた方が良い。

◎地域自殺対策計画の策定期間

- ・逗子市は本年度中に策定する必要がある。

◎人口規模別にみる自殺対策実施上の課題

- ・逗子市の策定上の課題は5万人以上30万未満を見る。
- ・課題に対してかながわ自殺対策推進センターも逗子市に協力する。みんなで進めていこうという作りになっている。

◎市町村自殺対策計画策定の手引き

- ・手引きをもとに地域の実情に合わせて無理のない計画を立てる。

◎自殺対策計画策定の意義：計画策定のメリット

- ・自殺対策は生きることにに対する包括的な仕組みであり、どんなことでも自殺対策になる。
- ・自殺対策において市で実施されている各部署の各施策を見直し、各部署との関係性を築くことが必要。自殺対策の策定を機会に各部署の風通しが良くなることに意義がある。

◎自殺対策計画策定の流れ

- ・太枠の内容の各部署の事業の洗い出しをしっかりとすることが重要

◎自殺の危機経路

- ・自殺の危険経路はごちゃごちゃしていて何だかわからないというのが特徴
- ・自殺は1つの要因だけではない。図の中で矢印は要因が一方向に進むわけではなく戻ったりしながら様々な要因が複雑にからんでいることが示されている。
- ・要因のどこに焦点を当てても自殺対策になる。今実施している対策をしっかりとやれば次に進まないで済む。

◎自殺対策計画策定の流れ：1意思決定の体制をつくる

- ・市長、関係部署、住民が関わる等広く地域ネットワークの参加を得る。

◎自殺対策計画策定の流れ：2関係者間で認識を共有する

- ・生きることへの阻害要因を減らしましょう、プラス要因を増やしましょう、後押ししましょう、支えましょうという視点をみんなで持つ。
- ・数値目標が必要。地域の実情性に合わせて実行可能なものにする。

◎自殺対策計画策定の流れ：3地域の社会資源を把握する

- ・神奈川県では事業だけではなく団体との連携も多く計画に入れている。「逗子市も神奈川県と連携して努める」のような文言を入れると神奈川県の計画と整合性がとれる。
- ・計画の名称を付ける時も「生きることの包括的な支援」の視点で入れるとインパクトになり主張が出来ていいのでは。
- ◎自殺対策計画策定の流れ：4 自殺対策計画を決定する
 - ・数値目標だけでなく、それぞれの事業についても目標等を明記する。
- ◎計画に盛り込む内容の決定：計画構成を決める
 - ・生きる支援の観点を大事にする。
- ◎計画の構成案
- ◎計画に盛り込む内容の決定：評価指標等を盛り込む
 - ・人口動態統計の数値で評価する。
- ◎計画の推進、推進状況の確認等
 - ・毎年評価をする。進捗状況の管理。
 - ・計画の枠にとらわれず柔軟に対応する。
- ◎5つのポイント
 - ・逗子市で実効性のある計画を立てていただきたい。

(質問・意見等)

- 質問1 原因別の自殺は健康問題が多くなっているが、健康問題の内容としてライフリンクの図の円の面積が大きければ大きいほど原因の数が多いと考えていいのか。
- 回答1 (講師) そのように連動はしていない。自殺の経路はライフリンクが作成したもので、自殺対策で自殺をする時はいろいろな原因が絡んでいると示す時に使われる図である。自殺の統計で出た健康問題の数が多いからライフリンクの円が大きくなっているわけではない。ただ、自殺総合対策大綱の中でもうつ状態の人の対策をしっかりしようとうたっていた。もともと自殺対策が始まった頃に何をしていたかわからないというところで、国は自殺を追い込まれた末の死と定義していて、そのためにはしっかり相談窓口を確保すること、うつ病等の精神疾患の対策をしっかり行うこととなっていた。経路としてはいろいろな状態の人がいて、追い込まれて心の視野狭窄となり(心の選択肢が狭くなり、視野が狭くなり)、最後は自殺に向かうことになる。うつ病やうつ症状の人の対策も必要である。
- 質問2 自殺する人がうつ状態で亡くなるという場合、原因として会社をクビになったとか生活に困窮しているなどでうつになると、うつが健康問題で原因としてあがってきて生活困窮が原因にはならないのか。最後に出てくるところで

原因が決まるということなのか。

回答2 (講師) 警察統計の集計の仕方になる。基本的にはいろんな問題が絡まっているので、1つの原因ではないという示し方になる。健康問題も身体の問題、心の健康問題もある。身体の問題で例えば入院して命にかかわる病気がある場合、その方々の背景にはうつ的な症状があり、その変化に気づきたいという主旨はある。単に健康問題はうつ病かと言うとうつ病やうつの症状があるので広い概念で見た方がいい。

質問3 逗子市の自殺の傾向や要因は何か。

回答3 (事務局) 誰が自殺で亡くなったか等の情報を共有し把握することは難しいが、支援につながっていても亡くなってしまった方については背景がわかる場合もある。ただ、いろいろな部署が相談を受け対策を取っているので、健康のところで把握している人かもしれない、障がいでも把握している人かもしれない、もしくは生活困窮かもしれない。まだネットワークが出来ていないので解りかねるところがある。

質問4 そこをまずはっきりできるように市の横のつながりが出てこない対策にむけての方針等が打ち出しにくいのではないか。

回答4 (事務局) 逗子市で亡くなられた人の現状から考えるのか、それともその手前のいろいろな相談の中で「死にたくなった」や「辛い気持ちがある」というところで支援を強化していくか、やり方もいろいろある。実際に亡くなられた方の遺族にライフリンクが実施したような聞き取りをすることはまだ難しいと考えている。今回立てる計画は立てて終わりではなく、今わかる範囲の逗子の現状と各部署が行っている事業が自殺対策につながっていることを伝えながら、聞き取りや棚卸を進め、いろいろな声を拾う中でネットワークが出来て計画が育っていけばいいと考えている。

質問5 今、実際支援している人の人数は几人か。

回答5 (事務局) 実際に死にたいと言う人もいれば、思っても言わない人もいる。数を拾っていくのは難しい。

質問6 逗子市役所の中では自殺対策について会議はされているか。

回答6 (事務局) 個々の部署のつながりでは個別に対応をしているが、現在、全庁の横断的な集まりはない。各部署が行っていることが生きる支援につながっていることをアピールしながら、棚卸をしていくのが今回の計画の入口のところ。

(講師) 神奈川県で計画を作った時も計画を作るからこの事業を始めるということはなかった。今まで行っていたことを取りまとめて自殺対策の計画を作ったというのが大きな柱。新しく検討することもあるが基本的には事業の洗い出しをして、自殺対策としてつながる大事なことを束ねてきた。逗子市

もいろいろな取り組みの中で、自殺対策や市民サービスにつながることの東
ね方、既にある計画と同じようになるかもしれないが、自殺対策の視点で東
ね直すことは大変な作業だが、意義があると考えている。

質問7 統計上のこと時間的な自殺の定義についてはどのようになっているか。

回答7 (講師) 警察統計では毎月発見地発見日を出している。毎月ブランクがあり、
速報値、暫定値、確定値がある。確定値の数値で示す。ホームページで見
ることができる。

質問8 未遂既遂のデータはあるか

回答8 (講師) 有る無しで答えることは出来ない。有るといえば有るが無いとい
えば無いと矛盾した言い方になる。計画を立てるために使えるものという視点
でみる。未遂をする人は難しい。救急搬送された数でみるのか、亡くなられ
た方の中で調査してあげていくのか。神奈川県で委託している事業で救急搬
送された人で経済的な問題がある場合、病院から司法書士会に連絡が入り入
院中に訪問してもらっておりその数はあげられる。統計的な数字の使い方は、
計画を立てるために何が有効かどういう部分を持ってくるかで変わってくる。

質問9 生きるための包括的な支援とあるが、どんな要素で自殺を踏みとどまってい
るのか。

回答9 (講師) どういう要素で踏みとどまっているかはなかなかわからない。ただ
言えることは、孤立をさせないことだと思っている。本人から辛いと言われ
れば、いろいろな相談に繋がったり、1回受け止めてもらうことでおさま
り過ぎることが多くある。そのために自殺に傾くような人の変化に気づき、
声を掛けてくださいというゲートキーパーの活動があり、神奈川県では市町
村と一緒にゲートキーパーを年間1万人養成している。近々で対応が必要な
方には次の約束をしたり、短いスパンで対応したりという方法論はあるが、
何がどうして踏みとどまっているかはわからない。一方で神奈川県や市町村
では自殺予防の普及啓発をしている。困った時はここに相談してくださいと
いろんな講演会を逗子市でもしている。何もないということではなく何かあ
った時に知っていただくことが必要。大事なことは人材育成(ゲートキー
パー)と普及啓発で、何かあった時に相談できる所を知ってもらうこと。

質問10 母数が少ないと率が変わる。他に求め方があるのではないか。

回答10 (講師) 順位や多い少ないは意味がない。はじめのころは自殺する人が多い
からどうしたら減らせるかという視点があった。今は2万人台だが急増する
前に戻っただけで以前危機的な状況は変わらない。大事な要素はこれから生
きることの支援について、プラス要素を踏まえて支援して行きましょう、地
域を作っていきましょうということ。個人を救うことはもちろんそうだが、
何かあった時に助けてもえる、何かあった時にどこにアクセスしていけばい

いのか、知っていただくと必要。

確かに小さい市町村だと0から1増えただけで上位にきてしまう。数値で判断するよりも少ない数を維持するとかいう見方をしていきたいと思う。

(2) 逗子市自殺対策の名称について

(事務局説明)

前段の説明にもあったように、自殺対策は「生きることの支援」である。「自殺」という言葉は印象がきつく、避けられてしまう。優しい印象で、誰もが自分も関係している事だとわかりやすい名称はないだろうか。サブタイトルでもよいので、計画の名称についてご意見を頂きたい。

(意見)

- ・ずっと死なない死なせない
- ・ずいぶんとしあわせだな、死ななくてよかった
- ・ずっとしあわせしなせない
- ・ずぶとくしあわせしなせない
- ・心元気
- ・守ろう大切な命
- ・見上げてごらん逗子のそら
- ・こころプラン
- ・こころ計画
- ・誰もが住みやすいまち
- ・ともに生きる
- ・ずっとしっかりこころ元気

〔後日メンバーより追加意見があった。〕

- ・みんなで守ろう大切ないのち
- ・いのちの見守り

4 その他

(事務局説明)

逗子市では平成22年度から自殺対策に取り組んでいる。人材育成であるゲートキーパー研修などもその一つである(資料:ゲートキーパー手帳参照)。

また、近隣の鎌倉市、葉山町、鎌倉保健福祉事務所、相談支援事業所や各市町の社会福祉協議会と協力し「生きるを支える鎌倉・逗子・葉山実行委員会」をつくり

毎年自殺予防についての講演会を開催したり、3月の自殺対策強化月間には駅前キャンペーンを行っている。9月10日は世界自殺予防デー、9月10日から16日

は自殺予防週間（自殺について誤解や偏見をなくし、正しい知識を普及・啓発する）である。今回の講演会は自殺予防週間に合わせ9月9日に行う予定である（資料：自殺予防対策講演会チラシ参照）

今後事務局で、庁内の各部署に「生きる支援」につながる事業等を確認、整理し計画の計画案を作成する。事前に検討会メンバー、アドバイザーにその内容を見ていただき10月末から11月に第2回の検討会を開催。検討会の結果を反映させ計画案を修正し、パブリックコメントを行う。パブリックコメントで出された意見をもとに再度計画案を修正し、平成31年3月に第3回の検討会を開催、計画策定を行う予定である。

5 閉会